

WS-2

IPE の新しい視座：IPS が教える専門職連携のヒント

日時：2026 年 6 月 5 日（金） 13：00 ～ 16：00

企画：下井俊典・酒井郁子・孫 佳茹・齊藤可紗（千葉大学）

対象

IPE に携わっている・携わる予定の教育機関の先生や臨床現場の現任者

概要

専門職連携教育（IPE）を導入・実施しても、専門職連携実践（IPCP）が円滑に機能する場合と不十分な結果に終わる場合が存在する。その成否を分ける要因は、他職種についての理解、協働の価値の認識、チームの共通目標の設定、専門職間の障壁（サイロ化）の克服、そして「専門職としてのアイデンティティ」と「他職種と協働するアイデンティティ」の両立にある。近年の研究動向では、これらのプロセスは「Interprofessional Socialization（IPS：専門職間の社会化）」という概念で整理されている。

本 WS では、この IPS を手がかりとして参加者同士が対話を展開し、IPS の視点を各自の教育・臨床現場での IPE や IPCP へどのように還元・活用できるかを共に探求することで、参加者が展開する IPE および IPCP の効果を最大化させることを目的とした。

報告概略

【理論的背景：社会化と IPS】

近年、我々専門職連携教育研究センター（IPERC）では、IPE および IPCP を「社会化（Socialization）」の観点から捉える試みを

重ねている。この「社会化」とは、個人の人間が特定の社会の一員として生きていくために、その社会の文化、価値観、行動様式を習得していくプロセス全体を指す。この社会化の下位概念の 1 つとして「専門職の社会化（Professional Socialization）」がある。これは、対象とする社会の枠組みを専門職集団に限定し、個人が専門職として高度で体系化された技術、知識、態度、倫理観、価値体系、行動様式、専門用語、アイデンティティを習得し、その集団の一員となっていくプロセス、と定義される。

しかし、この専門職の社会化が他職種との相互作用のない単一専門職教育（Uniprofessional Education）のみで行われた場合、自職種の役割理解が深化する一方で、他職種の役割に対する無理解や誤解が生じやすくなる。このような傾向は、自職種への内集団ひいきを強化する一方で、他職種に対するステレオタイプや偏見を助長し、将来的な IPCP の重大な障壁となり得る。

こうした課題を克服し IPCP を促進するために不可欠となるのが、IPS を基盤とした IPE のフレームワークである¹⁾。Khalili らのモデルでは、学習プロセスが以下の 3 つのステージで構成される。

・ステージ 1：障壁の打破（Breaking Down Barriers）

サイロ化した専門職集団間の壁を解消し、

自職種理解や他職種への誤解を批判的 (critical) に省察する。

・ステージ 2：専門職間の役割を学ぶ (Interprofessional Role Learning)

多職種チームによる協働作業を通じ、共通目標の設定・共有の重要性や相互補完的な役割関係を深く理解する。

・ステージ 3：二重のアイデンティティの形成 (Dual Identity Development)

既存の自職種アイデンティティを再構築するとともに、外集団であった他職種を含めた枠組みへと再カテゴリー化を行う。結果として自職種社会と専門職間社会の両方に帰属する「二重のアイデンティティ (Dual Identity)」を形成し、現場での IPCP へと連続させていく。

【ワークショップの展開と構成】

本 WS では、まず IPS についての講義による概念整理を行い、続いて IPS の視点から自組織の状況を省察する個人ワークと、それに基づくグループワークを展開した。個人ワークでは、IPS を基盤とした IPE モデルの 3 ステージを実践的に落とし込むため、以下の 4 つのテーマを設定した。

・テーマ 1 (ステージ 1 対応)：サイロ化した専門職間のバリアを打破する

・テーマ 2 (ステージ 1 対応)：専門職間で共有される共通目標を特定する

・テーマ 3 (ステージ 2 対応)：他の専門職のこと、各専門職が IP チームで果たす役割を学ぶ

・テーマ 4 (ステージ 3 対応)：自職種としてのアイデンティティと IP アイデンティティという 2 つのアイデンティティを育む

参加者はこれら 4 つのテーマに対し、1) 現在行っていること (強み・実践)、2) 行えていないこと、3) なぜ行えていないか (障壁・理

由)、4) これからやってみたいこと (アイデア) の 4 つの問いについて取り組みや考えを整理した。その後のグループワークでは、各テーマ別の 4 つのセッション (1 セッション 20 分×4 回) を実施した。各セッションでは個人ワークの成果を共有し、他者の知見や異なった視点からの気づきを深めた。最後に、各グループでの討議内容や得られた洞察を全体セッションにて共有し、集約した。

【成果と今後の展望】

当日は教育機関所属 11 名、医療機関等所属 4 名の計 15 名が参加した。実施後の独自アンケート (回答数 13 名、回収率 86.7%) の結果、総合満足度は平均 8.7 点/10 点満点となり、昨年度の第 91 回ワークショップ (7.2 点) から向上が見られた。満足した点については、現在の IPE 実践を見直すことができた、IPE の理論と実践を学ぶことができた、様々な組織の取り組みや悩み、職種の考え方の多様性を知ることができた、などの意見をいただいた。一方で満足いただけなかった点については、講義のスピードが速い、理論的に理解しきれなかった部分が議論しきれなかった、といった指摘が寄せられた。

IPS を軸としたワークショップは、昨年度に引き続き、我々としての新たな挑戦であるが、プログラムのブラッシュアップにより、より高い学習効果と参加者満足度を達成できたと考える。現在実装されている、あるいは今後導入される IPE の質を高め、その教育を受けた学習者が将来の保健医療福祉の現場で IPCP を牽引するリーダーとして活躍していくために、IPS は極めて有用な概念的枠組みである。今後は講義時間や事前学習の工夫なども取り入れつつ、本プログラムのさらなる発展と普及に取り組んでいきたい。

引用文献

1. Khalili H, Orchard C, Laschinger HKS, Farah R. An interprofessional socialization framework for developing an interprofessional identity among health professions students. J Interprof Care 2013; 27(6): 448-453.

スケジュール

13:00 - 13:05	開会挨拶、概要説明
13:05 - 13:30	講義「IP Socialization とは」
IPE の新しい視座：IPS が教える専門職連携のヒント（13:30 - 15:50）	
13:30 - 13:50	個人ワーク： IP Socialization の視点から自組織を振り返る
13:50 - 14:00	休憩
GW セッション（14:00 - 15:50）	
14:00 - 14:05	オリエンテーション
14:05 - 14:25	セッション 1
14:25 - 14:45	セッション 2
14:45 - 14:55	休憩
14:55 - 15:15	セッション 3
15:15 - 15:35	セッション 4
15:35 - 15:50	全体共有
15:50 - 16:00	まとめ、質疑応答